

○引用文献

兵庫県, 2023. ひょうごの環境, 兵庫県版レッドリスト2022 (昆虫類), (https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/2022)
八木 剛, 2007. 兵庫県におけるヒメボタルの分布. 人と自然 No.18, 163 – 172.

(Akiha KUBO 神戸市立井吹台中学校)
(Yuzuha KUBO 神戸市立井吹の丘小学校)
(Yoshiyasu KUBO 兵庫県神戸市)

兵庫県におけるニセホソアシナガタマムシの初記録

菅原文昭

2023年5月3日に, 筆者は兵庫県川西市国崎においてニセホソアシナガタマムシ *Agrilus adelphinus* Kerremans, 1895 の雄を1頭採集したので報告する (図1A).

1ex, 兵庫県川西市国崎. 3.V.2023. 筆者採集・保管

ニセホソアシナガタマムシはホソアシナガタマムシに形態が極めて似ているため, 国内における両種は長らく混同されていたが, 2002年に個体数が多いホソアシに混じって本種が国内各地に分布していたことが報告された (Ohmomo, 2002). 兵庫県のタマムシ類については, 高橋寿郎氏が本誌に極めて詳細な報告をしている (高橋, 1998a, 1998b, 1999) が, これは上記の Ohmomo (2002) 以前なこともあり, 本種はリストに含まれていない. したがって今回の報告は兵庫県における初記録となるが, 高橋氏のコレクションのホソアシナガタマムシと同定された標本の中に本種が混じっている可能性も残される.

本個体は山の斜面に生えたクヌギの枝先のスイーピングにより採集された. 同日に数十メートル離れたクヌギ伐採木からホソアシも採集されたので, 両種は他の国内諸地域と同様に, 同所的に生息しているものと思われる.

ホソアシと本種との区別は背中側と側面 (図1A, C) からは困難で, 雄の交尾器がゆるやかに広がるホソアシに対し, 包片先端付近が強く広がること (図1B), 前胸腹板隆起の形状がホソアシは先端に向かって弱く広がるのに対し, 本種は広がらず舌状で, 黄色い毛に覆われることで区別できる (図1D) (Ohmomo, 2002; 福富他, 2022).

末筆ながら, 同定にご協力いただいた石川ふれあい

昆虫館の福富宏和氏に感謝申し上げます.

○参考文献

Ohmomo, S., 2002. Buprestid beetles (Coleoptera: Buprestidae) new to Japanese fauna (Part 1). Ent. Rev. Japan, 57: 155-164.
福富宏和, 山田航, 瑤寺裕, 尾園暁. 2022. タマムシハンドブック. 文一総合出版
高橋寿郎, 1998a. 兵庫県のタマムシ (1). きべりはむし, 26(1): 13-19.
高橋寿郎, 1998b. 兵庫県のタマムシ (2). きべりはむし, 26(2): 8-13.
高橋寿郎, 1999. 兵庫県のタマムシ (3). きべりはむし, 27(1): 9-15.

(Fumiaki SUGAHARA 兵庫県西宮市)

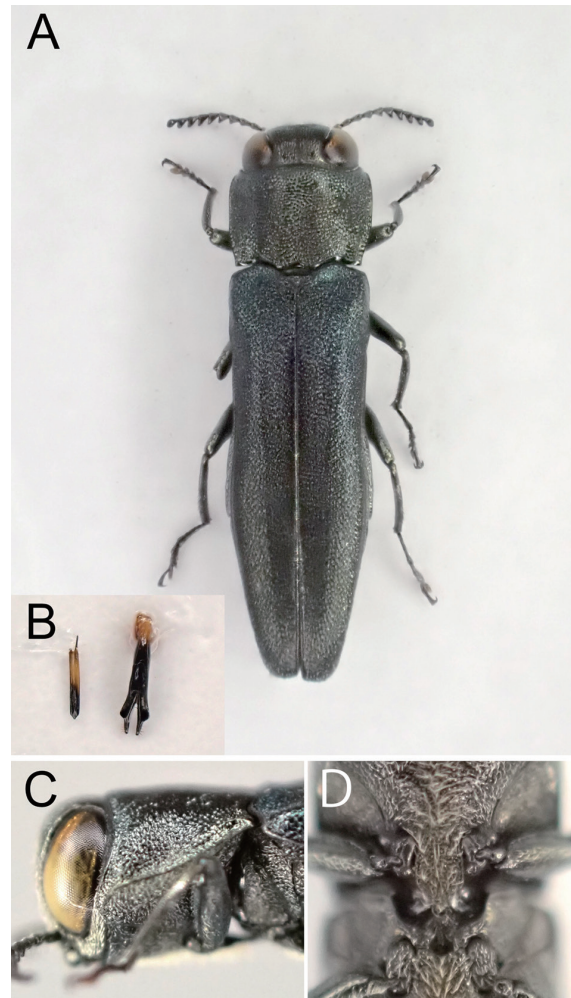


図1. 採集したニセホソアシナガタマムシ A. 背側外観 B. 交尾器 C. 前胸側面 D. 前胸腹板突起.